

1 レモングラス (*C.citratius*) の特徴

熱帯アジア原産のイネ科の多年草。

主な香気成分として「シト랄」が含まれており、葉及び葉鞘が料理やハーブティー、香料や精油の原料など幅広い分野で利用されている。

生育旺盛であり、栽培は比較的容易だが、寒さに弱い。



図1 レモングラス

2 栽培暦

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月														
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下															
作業	堆肥・基肥散布									株分け・定植						収穫									冬越し(株分け用)																							
・堆肥	2t/10a、苦土石灰100kg/10a (土壌分析結果により判断)									・収穫方法						歩行型モアを使用 株元から切断し、集荷する 刈る際に、収穫物を自動的に片側に寄せるため、集荷も容易である 刈払機による収穫と比較して作業時間を約36%削減できる(図4、図5、図6)									・冬越し												翌年定植する株分け用苗を確保するために越冬させる 一株から10～30本程度苗の確保が可能											
・基肥	N,P ₂ O ₅ ,K ₂ O 各10kg/10a																																															
・定植	株分けした苗を15cm～20cm程度の長さにカットし地植えする(図2、図3)																																															
・栽植密度	畝幅100cm 株間50cm (10aあたり2,000本)									・目標収量						10aあたり2,500kg以上(生重)																					①ほ場で越冬させる場合(図7) 8月までに収穫し、刈取り後新たに伸びた葉を残したまま、12月に畝全体をトンネル被覆。最低地温6℃以上、最高地温30℃以内を維持する											
・病虫害	病気はさび病、害虫はヨトウムシ、ハダニ、メイガ等がみられるが、発生頻度は少なく、収量に大きく影響しない									・収穫回数						年1回(8月～10月) ※台風による倒伏のリスクを避けるため、8月での収穫が理想																					②ハウス等で越冬させる場合(図8) 鉢上げし、最低気温5℃以上の環境を維持する											



図2 株分けした苗



図3 地植えした苗



図4 歩行型モア



図5 収穫の様子

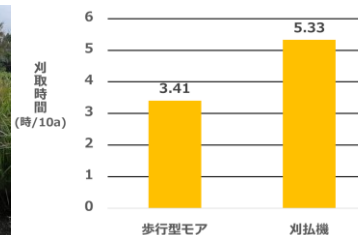


図6 10aあたり刈取時間



図7 トンネル被覆



図8 ハウス内越冬

3 留意点

本マニュアルは、宮崎県小林市野尻町で試験栽培したレモングラスの調査データを参考に作成したものである。